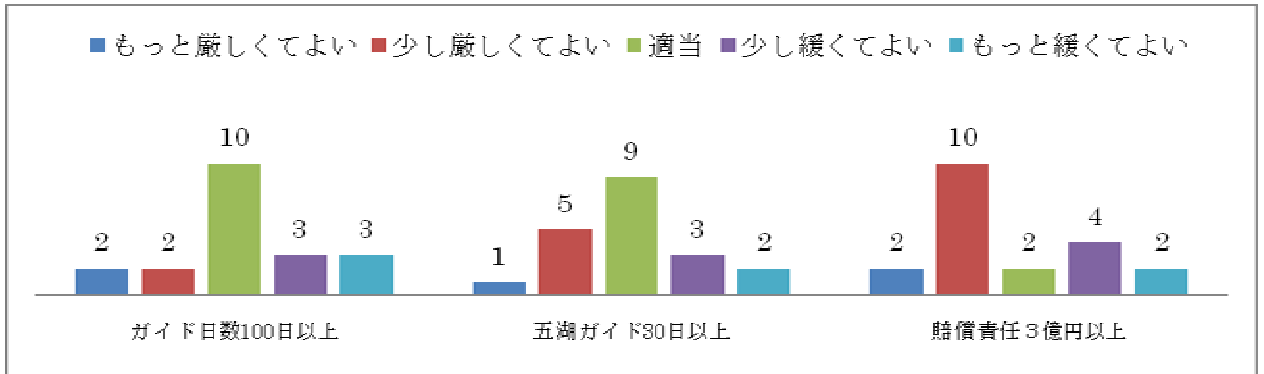


知床五湖利用コントロール導入実験のための研修と認定試験に関するアンケート調査-報告

北海道大学農学部 久保

皆様に回答していただいたアンケートについて、簡単に御報告させていただきます。今回は残念ながら、まとめる上で省略させていただいた面も多々ありますが、今回の反省会の議論の際に参考にしていただければ幸いです。

問1 今回の応募条件について



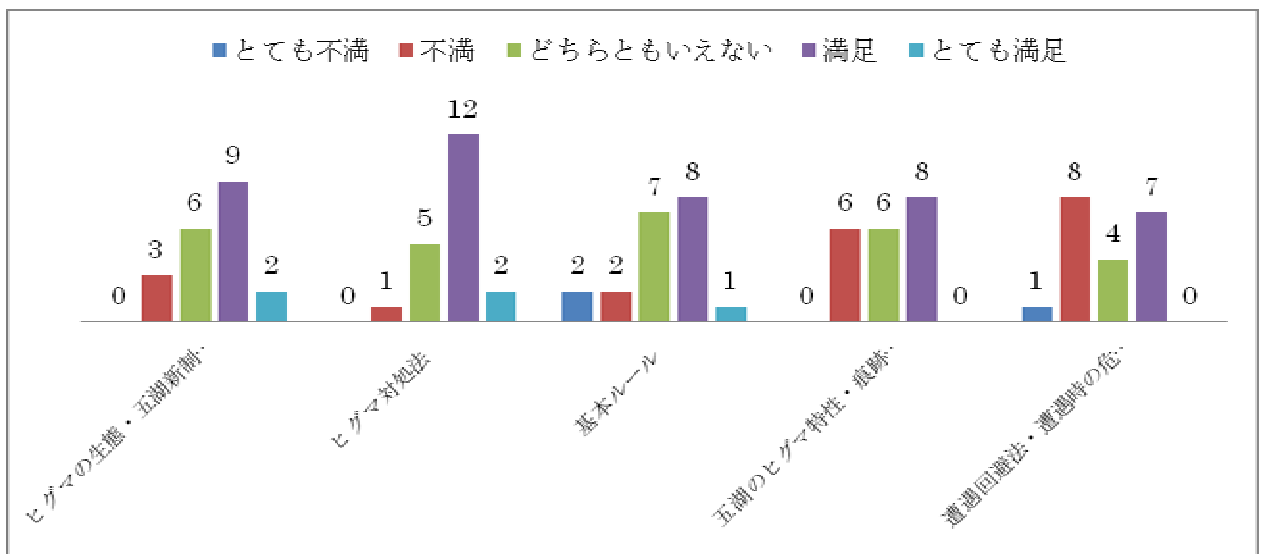
ガイド日数と五湖ガイド日数に関しては「適当」との意見がほぼ半数を占めたが、賠償責任保険に関しては少し厳しくてよいとの意見が半数を占めた。

(応募条件に対する評価の理由と意見)

- 応募条件をつくるのであれば、そこはしっかりと守る必要がある。場合によっては検証も必要ではないか (8名)
- 今の条件だと五湖中心にガイドをしている人に限られる。来年度以降に関してはもう少し間口を広げるべき (4名)
- 事業者が賠償責任に入ることなど常識なので応募条件とするのはいいが、外部にアナウンスする話ではない (1名)

問2 今回の研修について

研修(1)

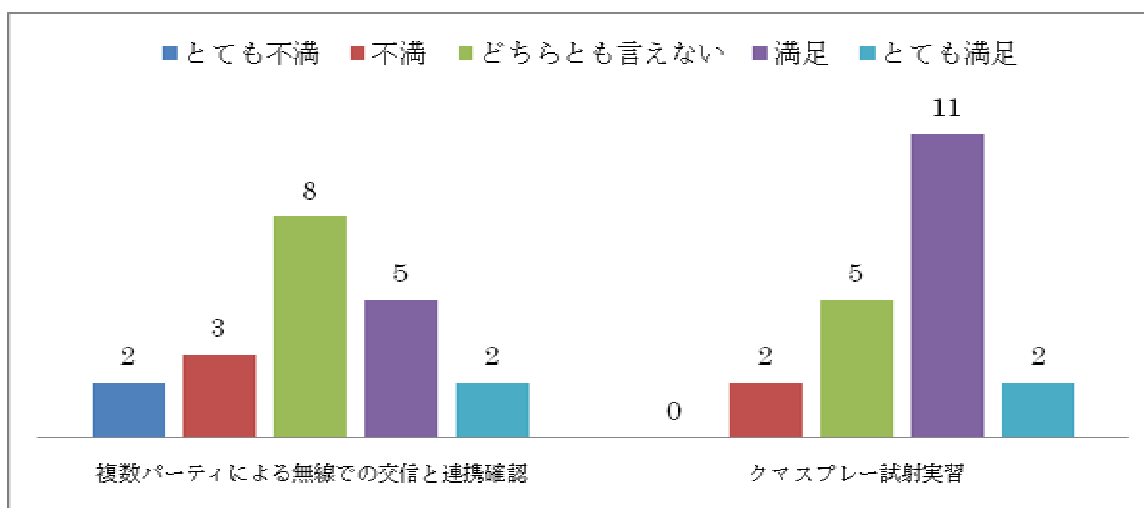


基本的には満足が多かったが、基本ルールと遭遇回避法・遭遇時の危機回避に関しては不満の声が聞かれた。ルールの不確定具合やマニュアルの実戦面が課題となったのだろうか。

研修(1)に関する評価の理由と意見

- 座学は復習にもなりよかった。基本的なことをガイド間で共通認識として得られたのはよかった(4名)
- マニュアル通りに対応することの難しさと限界を感じた(4名)
- ヒグマの出没箇所や痕跡、標識の付いている個体の情報などもっと聞きたかった。それを踏まえて五湖の避難マニュアルなどを作ったらよいと思う(4名)
- ガイドの方のノウハウを反映する場が必要だった(1名)
- 現地実習は何をしたかったのか、不明瞭だった(1名)

研修(2)

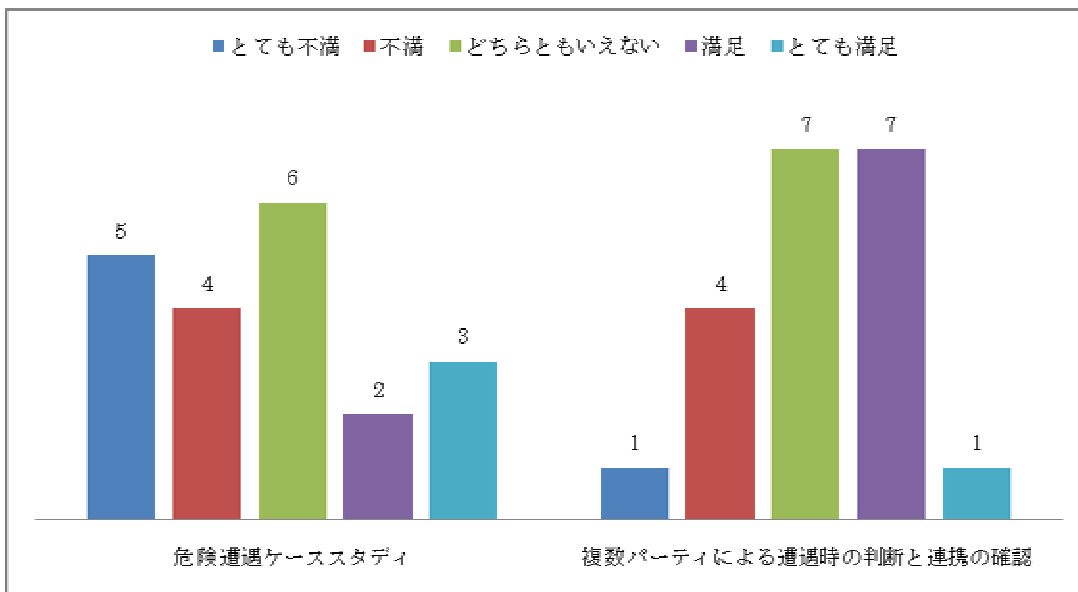


複数での無線に関してはどちらともいえないが多かった。慣れ必要性も感じたが邪魔に感じることも多かったためだろうか。クマスプレーの試射に関しては概ね好評だった。

研修(2)に関する評価の理由と意見

- 無線の意義を明確にし、もう少し使用回数を減らすなり、簡素化してほしい。雛型などがあるとよい(5名)
- 無線に関してはもっと時間や回数をかけて慣れていく必要がある(3名)
- スプレー試射は普通はやらないのでよかった。年一回ぐらいは必要(2名)
- 無線で使う地点名は日本語にするべき(1名)
- スプレー試射は経験していたのもっと早く抜くコツなどを知りたかった(1名)
- 無線交信のやり方など、研修を行う側でも決まっていないようで不安だった(1名)

研修(3)

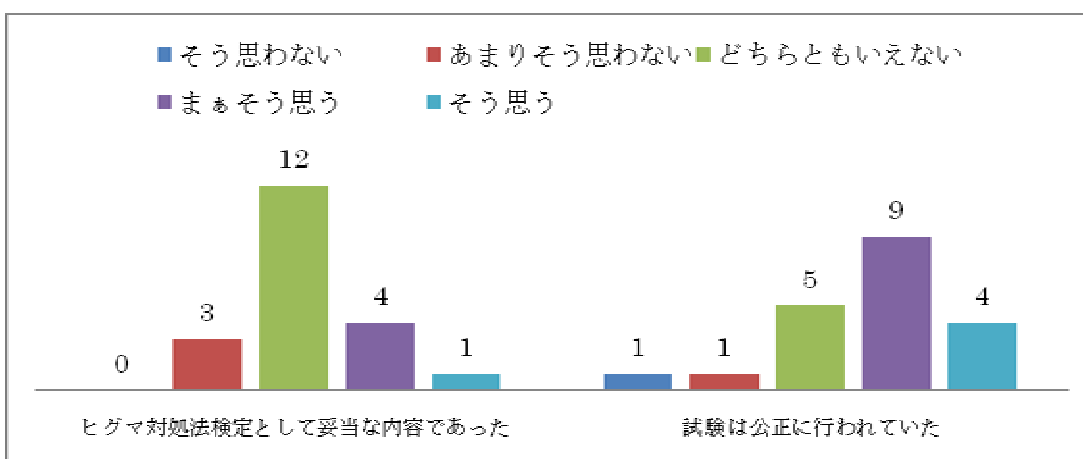


危険遭遇ケーススタディに関してはかなり否定的な意見が目立った。情報の不足、情報の共有の仕方が課題だろうか。

研修(3)に関する評価の理由と意見

- 過去の事例についてももう少ししっかりと調べてほしい。もっと過去のことを（ガイドが答えた物も含め）発表してほしい（6名）
- もっとガイドも査定側もマニュアルを把握（検討）する必要がある（4名）
- 研修での練習・意思疎通がグループによっては不足していた（3名）
- 五湖のみならず広域で無線の連携が取れるように考えてほしい（1名）

問3 ヒグマ対処法の検定試験について



妥当性としてはいま現在ではどちらともいえないとの意見が目立った。公正さに関しては大きな問題はない様だった。

検定試験に関する評価の理由と意見

- 客役やクマ対応など現実的ではないところがあった。せめてクマ役は必要（4名）
- （検定ではなく）グループ討議や実戦練習、連携の強化、実際に事故が起きた時の対処法などの研修も行き技術を高めるべき（3名）
- お手本があればよかった。ガイド側のノウハウも考慮する必要がある（2名）
- 自分の行動を数字で評価してもらいよかった。直後に悪かった所は教えてもらう方がよかった（2名）
- 検定者の中で意思疎通が不足していたのではないかと疑問を持った（1名）

問4 基本ルールについて

- 管理者（本部）が状況を理解するためのルールのように感じた。実際にお客を連れて歩いているガイドや外部の意見を収集してほしい（5名）
- もっと実験を行って現地に即したルールに改善していくべきだ。今回のものはベースにはなるだろう（5名）
- このままでは結局はガイドにお任せとなって、ガイド同士の連携は難しくなるのではないかと心配（2名）

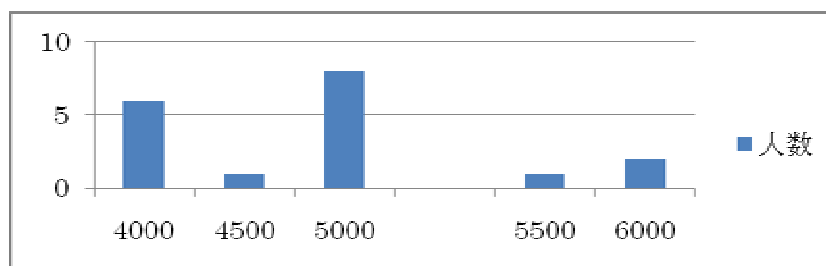
問5 責任について

- ガイドの責任が重くなる。ガイドはレンジャー的な役割まで求められている（7名）
- 今までと同じだけ責任が生じる（2名）
- ガイド・行政とともに重くなる。マニュアル通りで事故は行政、＃を守らなければガイド（3名）
- 対策は基本的には検討中だったが、定期的な訓練などの継続や行動記録の徹底、最終的な賠償責任に対する備えなどの回答がみられた。

問6 知床五湖の利用のあり方協議会に求めること

- 情報交換会（特にガイドの持つ）や研修、勉強会の開催。時間が限られているので Web 上での掲示板なども必要（6名）
- 対外的な周知（観光客などへの案内）が早急に必要（2名）
- ヒグマや植生への配慮は五湖だけではなく国立公園全体で考えるべき（1名）

問7 ヒグマ活動期ツアー予定金額



4000円から6000円の間で分かれました。現状と変わらないという方もいましたが、なかには今よりも受付等で時間がかかることを考慮している方もいた。

問8 知床全体の観光動向の変化

- 五湖の利用者数が減る（9名）
- 高架木道利用者が増える（3名）
- 団体客が減る（3名）
- それ以外の場所（フレペなど）が増える（2名）
- 知床全体の観光客が（このまま）減少する。しばらく混乱が生じる（2名）

問9 ヒグマ活動期にどのようなツアーをされるつもりですか？

- 今まで通り五湖ツアーを行う。（2名）
- 五湖と他の場所を併用してツアーを行う（5名）
- 五湖以外の場所でツアーを行う（5名）

自由回答

- 観光面に関してももう少し考えてほしい（4名）
 - 団体客を今のままだと受け入れられない。ガイド2名で連携するのは慣れているので、その場合2グループ入れて対応してはどうか。
 - 旅行会社の対応などが気になる。
 - 繁忙期に予約がとれなくてクレームなどなければ良いが。
 - お客にPRする方法も考える必要がある。
 - 今回の実験では人数が多い方がツアーを持つということだったが現実ではありえない。
- 他の場所も含めてもっと考えてほしい（2名）
 - ヒグマに対してのガイド制の導入なら、他の場所（フレペなど）は必要ないのか。
 - 今回のシステムでお客からレクチャー費をとるなら、国立公園全体で考えてほしい。そうしなければ、エサやり、交通事故、などは減らない。
- 事故が発生した時の対応訓練もしっかりやってほしい（2名）
 - 何かあった時の責任は、ガイドにまるなげ状態とを感じる。
- ガイドの教育、勉強にうまく活かしてほしい（2名）
 - オフシーズンに話し合いや研修、報告会などを開き、全員のレベルを上げられるようにして欲しい。
 - 認定ガイドを厳しくしてくれればガイドの教育に役立つ。ガイド教育は知床ならば五湖でなくてもできる。
- 観光にはマイナスの影響の方があると思うが、ある程度の規制も必要だと思う。（1名）
- もっと早い段階から実験などの予定を立ててほしい（1名）
- 財団や行政機関のさじ加減で制度が施行されないように、協議会がチェックする機能を持つべき（1名）